



ふれあいのひろば

第9号



元サンノゼ交換学生、なつかしい顔勢ぞろい

国際化の一層の推進に向けて

会長 小坂 淳夫

会員の皆様におかれましては、平素から当協議会の活動に対しまして、格別の御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度当協議会では岡山市とともに、はじめて友好都市洛陽市へ第1回技術研修生を協派遣いたしましたし、姉妹都市ブルガリア共和国プロブディフ市からも、はじめて研修生を受け入れており、姉妹都市交流をはじめ活発な交流がなされています。

また、岡山市とともに新たな事業としまして、留学生支援をはじめ、市民レベルでの国際交流や国際貢献を促進するため助成金制度を設けており、画期的な取り組みとして大変注目されています。

そして、開設2年目を迎えて西川アイプラザも、日本文化紹介講座・ふれあい講演会等交流

事業も充実してきており、市民および外国の方々との楽しいふれあいの場、情報交換の場となっております。

また4年目を迎えた、岡山市国際交流祭「あいフェスティバル'93」も「アジア諸国」との交流を重点に、市民と外国人（30カ国）の方々との普段着の国際交流が繰り広げられました。

これもひとえに、会員の皆様方の御支援と御協力の賜物と心から感謝いたしております。

地域の中での国際交流・国際貢献の必要性がますます高まっている中、当協議会でも地域に根ざした草の根交流推進のため、地域の活性化に役立つ事業を積極的に推進していきたいと存じますので、皆様方の一層の御支援をよろしくお願い申し上げます。

姉妹都市サンノゼ親善訪問団

森末京助役を団長とする25人が、5月31日から6月8日まで、ジャパンカルチャー・フェスティバルに、日本文化を紹介するため姉妹都市サンノゼ市を訪問し友好を深めました。



▲サンノゼ市長・スーザンハマー氏を表敬。

▶ 商業会議所において、パシフィックネイバース主催の歓迎レセプション。サンノゼ市のプロアイスホッケーチーム「サンノゼシャークス」の帽子をプレゼントされ、全員御満悦。



▲ジャパンカルチャー・フェスティバルオープニング会場。和太鼓（神道山太鼓）で、岡山市をアピール。



三カ国交流プログラム アーバイン会議開催



▲サンノゼ姉妹都市実行委員会委員長国富比左子氏が参加し、有意義な研修を行うとともに世界30都市の人々と交流した。

カリフォルニア州アーバイン市で6月24日から3日間、SCI（シスターシティーブ・インターナショナル）主催により、グローバルな交流推進会議が開催されました。



▶ インドのサリーで試着会。お互いの文化の交換をした。

市長訪米

10月8日から19日まで、サクラメント市で開催された日米市長会議に出席されるとともに、姉妹都市サンノゼ市を訪問しました。岡山市とサンノゼ市の「交流促進に関する覚書」を交換し、岡山市寄贈の桃太郎像の除幕式に出席するなど、各地で友好親善を深めました。



▲岡山市桃太郎像の前で、スーザン・ハマー市長と再発局長のフランク・ティラー氏と。

サンノゼ市へ10月9日から29日まで、両市の交流の進展のため、医療分野の専門家として内田幸恵氏（日赤看護婦）を派遣し、グッドサマリタン病院などでエイズ・ホスピスプログラムについて研修されるとともに、親善大使として活躍されました。



▲研修先の Visiting Nurse Association (派遣看護婦協会) での歓迎会。(写真右側から3人目)



▲パシフィックネイバース主催のパーベキューパーティ。サンノゼ交換学生の提唱者ホーバー夫婦邸での安宅市長。

サンノゼ専門家研修に参加して

岡山赤十字病院 手術センター 内田 幸恵

私は、第1回岡山市専門家研修生として、昨年10月9日3週間、サンノゼ市へ看護婦研修に行って来ました。内容は、第1週目に病院訪問、第2、3週目はVNA (Visiting Nurse Association) での研修でした。

病院研修では、手術室研修に最も時間が与えられ、私の4年半の経験をもとに、当手術センターと比較しつつ数多くの事を学ばせていただきました。又、病院全体にコンピューターシステムが導入され、あらゆる事が円滑に行われていました。

VNA研修では、エイズ・プロジェクトチームに参加させていただき、そして「ここは、アメリカなんだ。」という事を痛感させられました。それは、エイズ患者があまりにも多い事を身を持って体験したからです。サンノゼ市は人口約80万人に対して200人のエイズ患者がいます。サンフランシスコは人口約100万人に対しエイズ患者が1万人。なんと1%を占めているのです。何年後かの日本が、もしアメリカの様な現状になっていたなら、それはとても悲しい事です。

VNAの2週間の研修中、エイズ患者の看護を学ぶと共に、私が最も感じた事は、看護を受ける患者と看護を行う看護婦の間には、必ずしも言葉は必要ないという事です。そこに「Hart (心)」が存在すれば、「Hart to Hart (心対心)」で信頼関係は結ばれるのです。

といった様な事は、ごく一部の事で、3週間の中で感じ、学んだ事は、もっと、もっとたくさんありました。又、この様なすばらしい経験を与えて下さった皆様に大変感謝しております。

パシフィックネイバース元副会長

グロリアストーン氏来岡

姉妹都市サンノゼ市から、岡山市とサンノゼ市との姉妹都市交流に長年に亘り貢献された、姉妹都市交流団体パシフィック・ネイバース理事（元岡山委員長）のグロリア・ストーン氏が、元交換学生たちの招待で来岡されました。



サンノゼ交換学生の集い

国富比左子

昨秋11月6日の宵、かつてサンノゼに派遣された交換学生の久しぶりの同窓会が開催されました。親睦を深めることもさることながら、今までの国際交流への関わりを省みるよすがとして、これからの自分たちの課題を見つけることがこの集いの目的でした。

遠くは東京や九州から25名が参加致しました。30年余その歴史が示すように「学生」というイメージとは少々かけ離れた耳順に手の届きそうな移民船での渡米組から、羨ましいような若さが漲っているジャンボジェットでの渡米組までが顔を揃えました。

同じ交換学生という立場で一年間貴重な体験をさせてもらった「感謝」と、同じ故郷サンノゼを共有し、遠く離れた友や家族に思いを馳せる「感傷」の二つの共通項で結ばれている人達は和気あいの雰囲気の中で自分達の「その後」を語りました。

今日まで交換学生制度をずっと支えて下さった方々が20数名来賓としてお越し下さり、私達の地域社会での国際交流活動の様子やサンノゼへの「熱い思い」を、じっと耳を傾けて聞いて下さいました。自分の経験を社会に還元し、国際化時代の一翼を担って頑張るようにと、叱咤激励されました。

社会の変遷と共にそれぞれが見て感じた「アメリカ」も少しずつ異なり、一生の宝物としてサンノゼから持ち帰り心の中で大切にしている物も多岐に渡っています。しかし誰もが共通して「人生の血となり肉となるような経験をさせてもらったのだからどこかで恩返しをしなくては」という使命感にも似た思いを持っております。

時雨の中を家路につく元交換学生たちは、来賓の方々のアドバイスやお互いの情報交換の中から、自分に与えられた課題を見つけたようにも思えました。



▲11月2日市長表敬



▲11月6日「サンノゼ交換学生のつどい」に感激のグロリア氏



▲平成元年度交換学生榎真由美氏となごやかにプレゼント交換

洛陽公式訪問団



▲10月29日市長表敬

岡山市と洛陽市の翌年度交流事業を協議するため、高島進助役を団長とする『公式訪問団』4名は、10月27日から11月5日まで洛陽市を友好訪問し、各地で交流を深めました。



▲洛陽市実験小学校を訪問

ニイハオ
你好!!

第5回

洛陽市技術研修生来岡

日本の先進技術を学ぶため、11月6日洛陽市技術研修生2名が来岡しました。

1年間滞在し、専門分野の研修を受けるとともに市民と友好親善を深めながら頑張っています。



氏名 韓 平
職業 洛陽工学院講師
(電気学部)
研修先 岡山理科大学



▲京都嵐山の周恩来碑前での二人



氏名 周 恵華
職業 洛陽工学院講師
(材料学部電子
顕微鏡実験室)
研修先 岡山理科大学

『第1回岡山市技術研修生 帰岡』

昨年4月から中国語習得を目的とするための『第1回岡山市技術研修生』の岡香里さんと白神浩子さんが、無事3月19日帰岡されました。お二人は洛陽工学院で中国語を学ぶとともに、岡山市からの親善大使としての役目も果たされました。洛陽での「思い出」を寄稿していただきました。

岡 香理

昨年の4月から始まった中国留学生活。今回は私達二人だけの留学生なので、家庭的で中身の濃いものでした。夏休み前の三ヶ月間の授業は私の中国語の基礎をしっかりと固めてくれました。

洛陽の街は岡山とどこか似ていて、都会でも田舎でもなく、過ごしやすく、すぐに溶けこめる街でした。

また中国にはたくさんの伝統行事があり、その度毎に、先生方や学生達と思い出を作ることができました。私にはどれも新鮮で、特に学生が伝統行事に積極的に参加する姿に、とても感動しました。逆に私達が、学生達にカレーライスや炊き込み御飯を作ってごちそうした時には、皆、初めて食べる日本料理に戸惑いながらも一口食べたたん、'好吃'と何度も褒めてくれて、私達の方が喜び二倍でした。

今回の留学は中国語をマスターし、そして洛陽市民との友好を深める点で、二人供十分役目を果たしたと言えます。また私自身、異国での生活を通じ一回り二回りも成長したように思えます。洛陽市の人々、工学院の先生方、岡山市の方々、本当にたくさんのお心遣い、ありがとうございました。



▲洛陽工学院での岡さん(写真左)と白神さん(写真右)

白神浩子

昨年四月、桜満開の岡山を出発し私の留学生活が始まった。中国語の学習では苦勞したが、勉強すればするだけ先生は答えてくれる、共に成長を喜んでくれる、それが私の勉強の支えとなり、また覚えた中国語がすぐ実践に役立つことが何とも言えない嬉しさになっていた。

一ヶ月、単語がひろえる様になり、三ヶ月後会話ができるようになった。7月初めに学期末の試験があり、その後8月末まで夏休み。常日頃から計画を練っていたカジュアルとラサへ。途中で友達ができたり、別の中国人団体に加えてもらったり、タクシーの運動手とケンカしたり。しかし何といっても中国の雄大な自然に圧倒され、少数民族に魅せられた旅だった。そして9月。たくさんの方達と遊ぶ中で中国の若者を知り、一般の生活に触れることができた。

言葉って大切だと思った。確かに何よりも心が一番。しかしその国の言葉を使つての交流は更にすばらしい人間関係になるように思う。この留学を通して見て、考えて、知ったこと全てを今後の生活に生かしていきたいと思っています。

『第2回岡山市技術研修生』派遣

昨年の洛陽市との交流協議により、本年は3名の技術研修生を洛陽市へ派遣します。お元気で1年間頑張ってください。



名古屋外国語大学卒
葛間 文彦

自分は洛陽に行って、大学四年間で学んだ中国語に磨きをかけると同時に、本物の中国語に触れる事で、基礎からやり直したいと思っています。また中国の生活習慣に触れながら、中国人の友達をたくさん作り、一緒に広大な中国を巡り歩きたいと思っています。帰国後は、中国残留孤児の方の為に、少しでも役に立ちたいと思っています。



岡山大学大学院文学
研究科在学中
近藤 由規

私は今回の研修を機に、TVや新聞といったマスメディアを通してではない、等身大の中国に触れたいと思っています。また、外国人留学生専用の寮で生活するそうですので、様々な国の人の目を通した中国に触れることができると思い、楽しみにしています。



岡山大学教育学部卒
三上 陽子

私は、岡山市技術研修生に選ばれ、喜びと共に、責任の重さも強く感じています。洛陽では、大学4年間学んできた事を基に、中国の教育の現状をぜひ自分の目で確かめたいです。

また音楽、スポーツを通じた交流活動にも積極的に取り組み、日中友好の架け橋となるよう努力します。

ブエナス タルデス
BUENAS TARDIS
(こんにちは!)

コスタリカ共和国サンホセ市から
研修生来岡

サンホセ市からの第2回目受入れ研修生、ミリアム・デ・モンティール氏（姉妹都市協会会長）とメアリー・アリス・レスコ氏（姉妹都市協会会員）の2人は9月17日に来岡されました。3週間『日本の救急体制』について研修されるとともに、さわやかな笑顔で市民の方々と交流を深めました。



▲市長表敬するミリアムさん（写真左）メアリーアリスさん（写真右）



▲市役所の組織について説明を受ける2人



◀消防局消大技術訓練大会で
消化訓練するミリアムさん

Добър ден
Добър ден
(こんにちは!)

ブルガリア共和国
プロブディフ市から第1回技術研修生来岡

平成4年10月の公式訪問のおり交換した覚書き及び交流協議により、姉妹都市プロブディフ市から『第1回技術研修生』ロシツァ・カプリアン氏が来岡されました。

日本の進んだ経営理念を研究し、ブルガリアの企業経営へ応用するため11月24日から6ヶ月間岡山に滞在します。



▲岡山商工会議所会頭伊原木一衛氏を表敬訪問するカプリアンさん（写真中央）

プロフィール

氏名……ロシツァ・カプリアン
職業……アレンマック社（化粧品会社）
製造部門取締役
研修先……岡山商科大学（研究生）
市内企業

友好交流サロン

初年度から実施した語学講座、姉妹都市交流展の他に、今年度から「日本文化紹介講座」「ふれあい講演会」「ふれあい講座」を新たに企画し、在岡の外国人・協議会員・市民の方々にお互いの国の生活習慣・文化を知り国際理解の輪を広げたいと取り組みました。

日本文化紹介講座

協議会員の方が講師になり、ボランティア通訳の方の協力により日本の伝統文化をからだを通して体験してもらいました。講座のあとの茶話会では日本の文化について話の花が咲きました。毎回希望者が多く定員オーバーの盛況でした。



6月

◀ 折り紙
沢 政子先生
折る順序が分からない。どうするの？

7月

▶ 生花
井上幸子先生
生花の基本をよく見て生けましょうね。



8月

▶ 書道
木村明美先生

見て！ 見て！
この出栄え。
2時間たらずの練習で書いたのよ。



11月

▶ 茶道
大土吉子先生

そうです。
その様に、お布巾を使ってお茶碗を拭きます。



9月

▶ 琴
土屋澄恵先生

澄んだ音をだすには先生の手元を良く見ましょう。



ふれあい講演会

岡山市に国際交流に携わっておられる先生方から、海外生活や外国人との交友関係等の経験を基に、日本人と外国人との考えの違い・国際交流の在り方・国際貢献の取組み等幅広い視点からのお話がありました。

11月

今井 龍祥先生

ほおっておけない心の実践。
～直なる国際交流について～



12月

喜多嶋 美枝子先生

メダカの水槽と熱帯魚の水槽。
～同質性の日本人と個人的な外国人～



～交流事業

この一年～



1月

国富 比佐子先生

本当の国際人ってどんな人。



3月

菅波 茂先生

地域からの国際貢献。
～岡山をNGOのメッカに～

ふれあい講座

「岡山あいフェスティバル92」の事業の一環として募集したエッセイの中から入賞された留学生や岡山市の国際交流員そして、海外に長期滞在した日本人が講師になりました。それぞれの国の文化や生活習慣の紹介と日本との相異点などを中心に興味のあるお話がありました。

7月

スライドによる サンホセ市とコスタリカ紹介



山田 羊平さん

8月

スライドによる バングラディッシュの紹介



ジャハン・イスラットさん

9月

韓国人留学生が見た岡山



安 允 淑さん

講座の様子



11月

一留学生が見た日本と中国の違い



姜 雁さん

1月

カナダと日本

国際交流ふれあい講座
岡山市・岡山市国際交流協議会



ダグラス・ピーターソンさん

12月

内モンゴルを愛して



塞 英さん

姉妹・友好都市交流展

今年度はプロブディフ市やサンノゼ市へ岡山市民が親善訪問した様子を撮った写真や未だ展示していない絵画・書・特産などを陳列しました。

6月 洛陽

7月 プロブディフ

9月 サンホセ

2月 サンノゼ



各種語学講座

ハングル講座

初級担当

金 洪模先生



中級担当

豊 基亮先生



日本語講座

授業は能力別に午前中は6グループ・午後は3グループに分かれ、約10名のボランティアの方が先生となって指導されました。

受講生は年間延べ80名でしたが、続けることは難しいようです。

バングラデシュのお医者者の御夫妻をはじめ2～3人は2年間続けて勉強されました。

中国語講座

鳥越 崇昌先生



永井 節志子先生



2年目を迎え、ハングル・中国語講座に中級講座を新設、それぞれ初級・中級の二講座制になりました。

スタートはどの講座も定員20名でしたが一年後は殆ど半分以下、「継続は力なり」と言われますが実行は難しいようです。でも、受講生の中には中国語検定試験の3級に1名、4級に3名合格されました。



◀午前中の賑やかな授業風景



▼ビデオを使つての授業



ボランティア活動

ジェニファーに再会して

ボランティア通訳・翻訳登録者

難波 恵美子



「ジェニファー」私は中央郵便局のカウンターで、隣にいる女性に気付いて声をかけた。ジェニファーは岡山あいフェスティバルの1つ、'93年10月16・17日に行われた「ハローノわいわいバスツアー&ほのぼのホームステイ」に参加した約30名の在岡外国人の1人で、私はその時のボランティア通訳者であった。偶然再会し、その時のことを思い出した。

私達ボランティアは、前日に津高地区でホームステイした彼女達1行と17日に津高公民館で合流し、まず加茂大祭を案内した。ガイド相手はくじで決まり、私の相手はアメリカ人の英語教師、ジ

ェニファーとドミニカ人の男子学生、エミリオであった。境内前の道に並んだ露店でたいやきやたこやきを説明し、いっしょに食べた。やがてお遊び、御神幸と祭事が進み、笛や太鼓の音の中で人にもまれながら説明した。最上稲荷の広広とした境内に着く頃には皆打ち解けてだれかれなく話した。

「2週間後にアメリカに帰るのよ」

ジェニファーが切手を貼りながら言った。

そう言えば、あの時彼女が帰ると言っていた3月である。月日の経つのは早い。私もボランティア通訳に登録して8年経った。

ボランティア通訳研修会報告

ボランティア通訳・翻訳登録者及びホームステイ・ホームビジットの受入家庭の登録者を対象に、研修会が今年も開催された。

①の写真は7月11日友好交流サロンに於て「後楽園の観光ガイド通訳」の研修を行ったもの。英語・中国語・スペイン語と言語別の小グループに分かれて、スライドを使った研修模様。

②の写真は10月17日「加茂大祭」「高松最上稲荷」へ“わいわいバスツアー”の参加者と共にガイド研修を兼ね訪れ、親睦を深めたときのもの、日本伝統文化を実地に体験できた一日だった。



地球ファミリーに

ホームステイ・ホームビジット登録家庭

井上 詔子



「ゴンちゃん！」帰って来たロッシーは、ハウスから飛び出して出迎えるゴンに、真っ先にその声をかけ、しばらくの間、矢継ぎ早に話しかける。ブルガリア語で。ゴンの尻尾は嬉しきでちぎれそう。ゴンも、彼女の顔を見上げて、いっしょう懸命話しかけ(?)ている。「今日は何んなことがあったの? 疲れていない? 悲しいことやつらいことはなかった?」と問いかけているかのように。

ロッシー(ロシツァ・カプリアンさん)が、'93年11月26日に我が家のニューファミリーとなり、年末年始を一緒に過したので、沢山の楽しい共通体験ができました。その1つ。毎年恒例の氏神様への初詣。大晦日の紅白歌合戦が終わると、家族揃って氏神様である国神社へ歩いてお詣りするの

です。行く年の思い出や、来る年の抱負など、話しながら行き帰りは、幸せが共感できる家族の時間です。また、深夜の境内で頂く御神酒は家族の絆を深める味です。ロッシーも、ブルガリアの家族に思いを馳せながら味わったのです。

14年前から、ささやかなボランティア活動として、ホームステイを引き受けて、『今日から家族』という初日の緊張から、一日一日、お互いの理解を深め、思いやりや自己主張を重ねながら、家族のあゆみを創っていく喜びを感じさせてもらっています。今年も国際家族年。家族の家族は皆家族。世界の各国に家族が増え、世界中の人が1つの家族になるような、地球ファミリーが私達の願いです。

「あくら」編集について



弓削 敏子

「あくら」私が、この新聞を初めて手にした時、見なれた日本語の外に、英語、中国語、スペイン語の文字が目飛び込んで、新鮮な驚きを感じました。

絆(きずな)とは不思議なもので、私が「あくら」新聞の編集員になるとは、思いもしませんでした。国際交流活動の情報交換部門として、時代のニーズに対応する、新聞の編集に参加、協力する事は未知の分野にチャレンジする不安と期待で、口には言い表わせませんでした。新聞の作成はヤングから中高年、外国人等々、バラエティに富んだメンバーで取り組んでおります。テーマを決定

し役割分担(寄稿、イラスト、情報集収、その他).....

カナダ人の国際交流員の経験した「日本で困った出来事」は、在日外国人のために「時刻表の見方」、「キャッシュコーナーの取り扱い方」「あくら」第5号の発行誌「公共料金」は、大変参加になるのではないかと思います。新聞設置は案内所、大学、病院、留学生の出入の多い店舗等々。見近な場所で岡山駅の案内所で「あくら」新聞をみつけたら、一度読んで下さい。新聞の紙面も疑問、無駄を考えながら進行中、安定感はありませんが、毎回同じ紙面でないので新鮮です。「あくら」の新聞名の由来を、国際交流員の人に、たずねたら、岡山市の市木「あくら」がイメージポイントとの事でした。文章を書くのが好きで新聞、雑誌による原稿を書きますが、学校のPTA新聞「あくら」新聞等により、直接参加する編集の喜びを楽しんでいます。

岡山あいつェスティバル'93



▲テープカット

「岡山あいつェスティバル'も今回で
4回目を迎え、盛大に開催されました。」

～オープニングセレモニー（10/23）～

足守八州太鼓の呼び込みの後、名国国旗の入場があり、能登原昭夫委員長が開会を宣言した。続いて、安宅敬祐岡山市長、梶原岡山市議会総務委員長、小坂淳夫岡山市国際交流協議会会長の挨拶の後、テープカットが行われた。



▲足守八州太鼓演奏



▲出石小学校児童合唱

開会式には、出石小児童の合唱、市消防音楽隊演奏・足守八州太鼓演奏のほか、韓国からの朴孝順（パク・ヒョスン）舞踊団の民族舞踊が披露された。



▲朴孝順舞踊団の民族舞踊

サロンコンサート

岡山市国際交流祭実行委員会・岡山市・岡山市国際交流協議会



▲サロンコンサート

友好交流サロンでは、日系3世を中心とするチリ人4名のアマチュアグループ「チリの声」によるコンサートが行なわれた。

チリの民族舞踊・民謡等15曲を披露した。

異文化のサラダ



加計学園
小野 愛子

真の国際化社会は“サラダ・ボウル”に例えられる。それぞれに異なる歴史、異なる文化を持つ多様な民族・人種が『共存』する社会を表す言葉であるが、同時に、そこでは“異文化のサラダ”が楽しめるのではないのでしょうか。ボウルの中で、トマト、キュウリ、人参、レタス等々いろいろな素材が、それぞれの色と味と香りを生かしたまま、きれいに混ざり合っているサラダはとても楽しい。

私たちの住む岡山が“サラダ・ボウル”と呼ばれるには、まだまだほど遠いかもしれないが、多数催される国際交流の場を利用して、自ら慣れ親しんでゆきたいものである。

「あいフェスティバル」は、いわばパーティー用の特別仕立てのサラダ・ボウル、普段のサラダより豪華で盛りだくさんな上に、“お祭り”というスパイスがふりかけてあるので、美味しき、楽しきもひときわである。いままで見たこともない野菜を発見したり、嫌いだった野菜の意外な美味しきを見直したり、食わず嫌いの人にも、この“異文化サラダ”をちょっとつまんでみてほしい。

日々の食卓にごく自然にサラダが添えられるように、私たちの社会において“異文化のサラダ”があたまえのこととして楽しめるようになるといい。

～韓国民族芸能公演会～

於：西川アイプラザ5Fホール

韓国から朴孝順（パク・ヒョスン）舞踊団（団員10名）を招待。韓国の伝統的な古典民族舞踊を楽しんだ。

国際交流祭実行委員会委員長登原昭夫氏
（写真中央）と朴孝順舞踊団（10/23）▶



～国際交流フォーラム「自然を愛して1万年」～

於：西川アイプラザ5Fホール

アメリカからドン・サンブソン氏（ワラワラ族インディアン、魚類野生生物協会理事）と横山孝

雄氏（関東うたり会代表ほか4名）招き、自然と調和しながら生きてきた貴重な体験談を聞くことができた。又観客と一緒に舞台上で踊りの交流もあり、楽しい一時を共有した。



▲ドン・サンブソン氏



▲関東うたり会

▼観客を交えての踊り



～わいわいバスツアー&ホームステイ(10/16・17)～

外国人と地域の住民との交流をはかるため、津高地区の小中学生と共に名所旧跡めぐりと、ホームステイを行った。また本協説会のボランティア通訳・ホームステイ登録者も参加し、交流を深めた。



▲オリエンテーション (津高公民館10/16)



▲マスカット狩り



▲「津高おもしろ探検隊」(小中学生と一緒に)



▲加茂川町の加茂大祭のみこしの前で



'93. 3. 10～13まで、西川アイプラザ友好交流サロンで、留学生写真展を開きました。26人による86枚の写真の出展があり、ユニークな楽しい写真展となりました。



▲'93. 3. 10表彰式

～姉妹都市訪問記～

中国・洛陽への国際親善演奏旅行



片山 康雄

去年の5月1日から5泊6日で中国（洛陽・西安）へ旅行した。目的は洛陽市合唱団とジョイント・コンサートをおこない親しく交流すると共に観光することにより見聞を広め国際親善に貢献する事である。この企画を計画しているうちに岡山空港からチャーター便を飛ばそうということになった。いよいよ出発。天候も良く約3時間半の空の旅で洛陽空港に到着。私は団長ということで一番にタラップを降りた。タラップのすぐそばに洛陽側の偉い方々が並んで、まるでテレビのニュースで見るとどこかの首相みたいに握手・握手の歓迎を受け、そしてホテルへ。ホテル前でもプラスバンドの演奏と市民の皆さんの熱烈歓迎を受け感動した。



その晩もホテル内で盛大なレセプションがあった。翌朝、洛陽市長への表敬訪問をして岡山市長と岡山市議会議長のメッセージを手渡した。その表敬訪問の様子は洛陽のニュースとしてテレビで放映されたそうです。洛陽市長はこの度私達が訪問したことについて洛陽市の歴史に残る意義ある事が4つあるといわれた。その第1は日本から初めてチャーター便が洛陽に到着した。第2は初めて124人という大勢の客が一度に洛陽を訪れて交流や親善演奏会が出来た。第4は私達が訪れた日は丁度メーデーの日であった。以上の4つである。演奏会は洛陽市合唱団とのジョイント・コンサートでした。洛陽市合唱団は師範学校の学生で若者ばかりでした。その日の夕食時も役唱団同志の交流で盛り上がり、演奏会も1,300人入るホールも満員の盛況でした。コンサート後も大変で私も握手やサイン攻めにあいました。慌ただしい旅行ではあったが、密度の濃い交流もでき、民間親善使節としてささやかながら国際親善に貢献できたものではないかと思っています。

8年9ヶ月の思い出

山本 雅子



私が岡山市役所に就職したのは、ちょうど協議会が発足した1985年4月でした。長いようで短かった8年9ヶ月で

したが、私個人も協議会と共に成長させていただいたような気がします。

この間、姉妹都市事業としては、サンノゼ市が姉妹都市縁組30周年、サンホセ市が20周年、洛陽市が10周年、そしてプロブディフ市が20周年と大きな節目を迎え、多彩な記念事業が繰り広げられました。また、「岡山あいフェスティバル」も回を重ね市民にすっかり定着するなど、協議会を含む市全体の国際交流事業に直接関わらせていただいたことは私にとって本当に貴重な経験になりました。どの事業も想い出深く、感慨深いものがあります。

私にとって、すべての原点となっているのは、1983年度交換学生として、サンノゼに滞在させていただいた一年だと言えます。「お世話になった方々へ御恩返しがしたい」「地元へ何か還元しなくては」という気持ちがあったからこそ、公私を問わず交流活動に従事できたと思っています。もちそんな熱意があっても、未熟な私にできることは限られていましたが、どうかやってこられたのは皆様方の温かい御支援のお蔭と心から感謝しております。

さて、長年お世話になった市役所を退職し、1月からフリーランスの通訳者としてスタートを切りました。自ら好んで飛び込んだ非常に厳しい世界で、これから一層の努力が要求されますが、常に原点に立ち返り頑張っていきたいと思っています。

これからは協議会会員として、皆様方と親しくさせていただければと思いますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

事務局員の山本雅子さんが昨年12月末退職されました。長い間お世話になりました。

お元気で御活躍ください。

ふ れ あ い ト ビ ッ ク ス



◀サンノゼ市再開発局長 同補佐来岡

(’93.7.9～14)

サンノゼ市再開発局長 フランク・ティラー氏、同補佐パット・ダントー氏はサンノゼ市との交流のシンボルJR妹尾駅前公園「サンノゼ・スクウェア」のオープニング記念式典へ出席するため来岡、今後の両市の交流についても協議した。

岡山市議会洛陽市訪問 ▶

(’93.11.13～20)

申田務副議長を団長とする、「岡山市議会代表団」一行8名は、洛陽市長および洛陽市議会議長を表敬訪問した。

(写真は、洛陽市議会議長表敬の一行)

なお、この友好訪問の際、申田訪団長は「洛陽慕情」と題する、古都洛陽を憧憬する歌詞を作り、洛陽への深い心情を披露された。

(一番のみ抜粋)

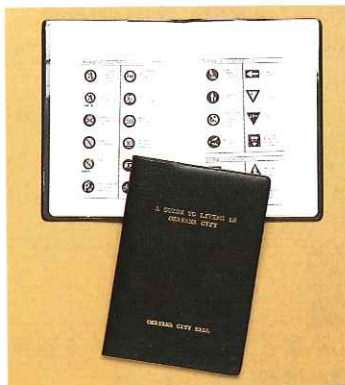


洛阳慕情

● 申田 務 (日本岡山)

(一)

火紅牡丹舐馨香，
 激情满怀赴洛阳。
 与君相会在王城，
 花绽笑颜喜相迎。
 啊，令人向往的洛阳！



◀外国人向け生活ガイドブック創刊

(’93.11.1)

かねてから要望が多かった。岡山市在住の外国人向けの生活ガイドブック英語版を創刊した。

生活に密着した暮らしの手引として留学生をはじめ在岡外国人に好評である。



◀ 洛陽工学院訪日団来岡

(’94.1.18～23)

岡山理科大学と洛陽工学院の学術交流ため龍鏡洛陽工学院長を団長とする「洛陽工学院訪日団」一行3名が来岡し表敬訪問した。

▶ 「ブルガリア・小さな天使」表敬訪問

(’94.1.20～22)

地域の国際交流の発展に貢献するためイオン1%クラブ（スーパージャスコグループ）がブルガリアより高校生12名の「ブルガリア・小さな天使」を受入れ、日本で唯一ブルガリアと姉妹提携している岡山市を表敬訪問した。また市内の高校との交流事業も行った。



◀ 国際観光客受入セミナー

(’94.3.2)

海外から岡山市を訪れる国際観光客の増加にともない観光関係者、一般市民を対象に「国際観光客受入セミナー」がロイヤルホテルで開催された。岡山市国際交流協議会も共催した。

▶ ふれあい国際交流講演会開催

(’94.3.5)

鹿児島県の（財）からも交流財団の専務理事大久保弘行氏を迎え、農村交流をベースにしたユニークな草の根運動についての講演会を西川アイブラザ「友好交流サロン」で開催した。



ホットミニ情報

- 友好都市洛陽市へ派遣する第1回技術研修生2名を引率して山本俊介市長公室長が洛陽市を訪問。
(’93.4.5~4.11)
- 岡山市日中友好協会主催「日中友好書画展」がロイヤルギャラリー(岡山市磨屋町)で開催。(’93.4.22~27)
- 本年より、岡山市の国際交流および国際貢献を推進するため「岡山市国際交流推進事業助成金制度」を発足。(’93.5)
- 岡山県と南オーストラリア州の友好提携が締結(’93.5.7)
- 洛陽市外事弁公室戴保安副主任他1名が、技術研修生派遣および公式訪問団等の協議のため来岡。(’93.5.21)
- 洛陽市のある中国河南省から、河南省人民代表大会代表団が、日本の地方市議会制度調査のため、三重県の招待で来日し、岡山市議会へ議会制度調査のため来岡。
(’93.6.8)
- 駐大阪・神戸米国総領事ティヴィッドA・バブスト夫妻来岡。(’93.6.24)
- 駐大阪・神戸米国総領事・大阪アメリカンセンター館長ウォーレン・H・ソイファー氏来岡。(’93.9.3)
- 平成ライオンズクラブ訪中団(団長綾野勝二氏)一行23人が洛陽市を訪問し、教育用品等を寄贈した。(’93.10.7~13)
- 外国人向け生活情報誌「あくら」第4号から、英国・中国語・ハングル語・スペイン語と日本語併記の5カ国語別とした。(’93.10)
- 姉妹友好都市を外国語で岡山市紹介する市勢パンフレット改訂版(英語・中国語)が完成。外国人来訪者や希望者に配布。(’93.10)
- 洛陽市と8月1日友好提携を行った、福島県須賀川市長が来岡。(’93.11.11)
- アジア映画祭〈中国編〉「乳泉村の子」が西川アイプラザで上演され当協議会も後援した。(’93.11.20~11.27)
- ブルガリア共和国プロブディフ市へ、中古医療機器等を寄贈した。(’93.11.30)
- 元岡山大学留学生4人が岡山大学主催の留学生国際シンポジウムに来岡。市内の小中学校で交流会を行った。
(’93.12.10)
- 岡山市名誉市民(元岡山市長)岡崎平夫氏が、岡山赤十字病院で逝去された。姉妹友好都市4都市より弔電が届いた。謹んで御冥福をお祈りします。(’93.12.27)
- 「洛陽市外国語学校訪日団」(団長楊宏保洛陽市人民代表大会副主任)一行25人が岡山平成ライオンズの招待により、同クラブ誌証5周年記念式典への出席のため来岡。
(’93.1.18~23)
- 市内の「喫茶サンホセ」で姉妹都市サンホセの写真・民芸品等を展示したサンホセ展が開催された。
(’94.1.19~24)
- 第8回文化視察交流団’94はだか祭り「西大寺会陽」に、在岡留学生、来岡中の姉妹・友好都市から研修生たちも見学。本協議会もこの事業に協力した。(’94.2.19)
- 洛陽市長に張世軍氏が再選され、洛陽市議会常務委員会主任に何澤氏が就任された。(’94.3.14)

おしらせ

西川アイプラザ「友好交流サロン」を中心に本協議会では本年度も、語学講座をはじめ国際理解講座・研修会など様々な企画を計画いたします。
皆様の積極的な参加をお待ちしております。

☆「あくら」編集スタッフ(ボランティア)

募集しています!

編集・翻訳(中国語・スペイン語・ハングル)を担当して下さる方、
経験・年齢・性別・国籍は問いません。

☆本協議会事務局が機構改革により新設の『総務局生活文化部国際課』となります。

場所は2階へ移転します。

今後ともよろしくお願ひします。

岡山市国際交流協議会

事務局 岡山市役所国際課内

〒700 岡山市大供1-1-1

TEL 086-225-4212

内線 3270~3272

西川アイプラザ「友好交流サロン」

〒700 岡山市幸町10-16

TEL 086-234-5882